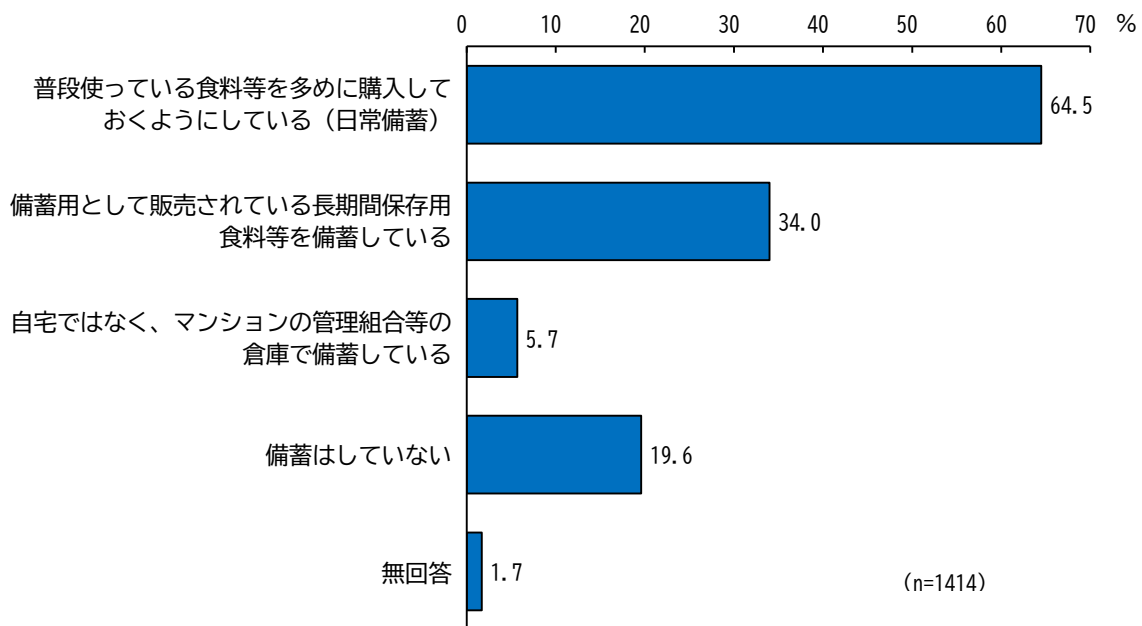


3. 防災対策

(1) 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄

◇「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」が6割半ば近く

問6 災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について、どのような取組をしていますか。
（「1」、「2」、「3」は、○はいくつでも）



災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について聞いたところ、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」（64.5%）が6割半ば近くで最も高く、次いで「備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している」（34.0%）が3割半ば近くと高くなっている。一方、「備蓄はしていない」（19.6%）は2割弱を占める。

年代別でみると、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」は18～29歳（50.4%）が5割と最も低く、70～79歳（73.7%）が7割半ば近くと最も高くなっている。「備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している」は30～39歳（39.0%）が4割弱、40～49歳（37.0%）が3割半ばを超えて高くなっている。「備蓄はしていない」は18～29歳（29.6%）が3割弱と最も高くなっている。

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 年代別

単位：％

		普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）	備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している	自宅ではなく、マンションの管理組合等の倉庫で備蓄している	備蓄はしていない	無回答
全体（n=1414）		64.5	34.0	5.7	19.6	1.7
年代別	18～29歳（n=135）	50.4	34.1	3.0	29.6	1.5
	30～39歳（n=182）	57.7	39.0	6.0	22.5	1.6
	40～49歳（n=219）	62.1	37.0	5.9	20.1	0.9
	50～59歳（n=255）	70.6	32.9	5.9	17.3	0.4
	60～69歳（n=213）	62.9	31.0	7.5	22.1	0.9
	70～79歳（n=232）	73.7	32.3	6.5	12.1	2.2
	80歳以上（n=145）	68.3	35.2	4.8	15.9	4.8

同居世帯の構成別でみると、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」は夫婦のみ（69.1%）と二世世代家族（69.3%）が7割弱と高く、「備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している」は夫婦のみ（38.3%）が4割近くと最も高くなっている。「備蓄はしていない」はその他（30.0%）が3割、一人暮らし（29.0%）が3割弱と高くなっている。

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 同居世帯の構成別

単位：％

		普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）	備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している	自宅ではなく、マンションの管理組合等の倉庫で備蓄している	備蓄はしていない	無回答
全体（n=1414）		64.5	34.0	5.7	19.6	1.7
同居世帯の構成別	一人暮らし（n=290）	54.8	28.6	4.5	29.0	2.4
	夫婦のみ（n=350）	69.1	38.3	6.3	17.1	0.6
	二世世代家族（n=583）	69.3	36.7	6.2	14.4	1.4
	三世世代家族（n=52）	57.7	34.6	5.8	19.2	5.8
	その他（n=70）	52.9	24.3	5.7	30.0	2.9

ライフステージ別でみると、「普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」は高齢期（76.8%）が7割半ばを超えて最も高く、次いで家族成長前期（73.9%）が7割半ば近くとなっている。「備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している」は家族成長後期（44.2%）が4割半ば近くと最も高くなっている。「備蓄はしていない」は一人暮らし（33.3%）が3割半ば近くと最も高くなっている。

災害時に備えた食料や飲料水の備蓄 ライフステージ別

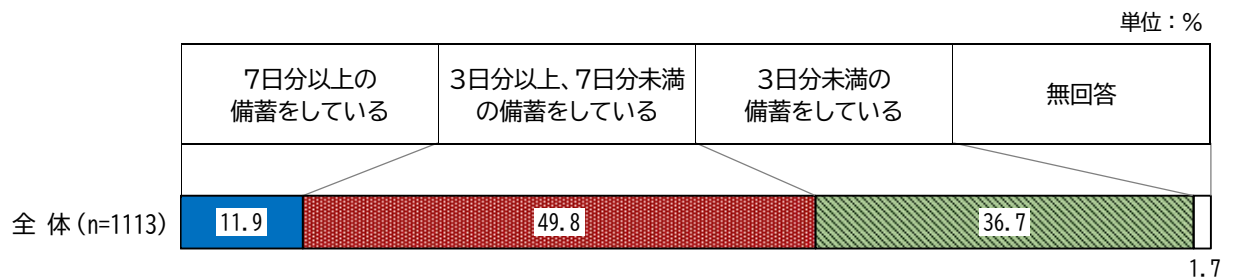
単位：%

		普段使っている食料等を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）	備蓄用として販売されている長期間保存用食料等を備蓄している	自宅ではなく、マンションの管理組合等の倉庫で備蓄している	備蓄はしていない	無回答
	全体（n=1414）	64.5	34.0	5.7	19.6	1.7
ライフステージ別	家族形成期（n=150）	61.3	38.0	8.7	20.7	1.3
	家族成長前期（n=115）	73.9	37.4	9.6	13.9	1.7
	家族成長後期（n=113）	60.2	44.2	7.1	16.8	0.0
	家族成熟期（n=90）	60.0	34.4	2.2	18.9	2.2
	高齢期（n=241）	76.8	37.3	7.1	8.7	1.2
	高齢期（一人暮らし）（n=128）	60.2	30.5	6.3	23.4	3.9
	一人暮らし（n=162）	50.6	27.2	3.1	33.3	1.2
	その他（n=415）	64.8	30.6	4.1	21.4	1.9

(1-1) 災害時に備えた備蓄の量

◇「3日以上、7日分未満の備蓄をしている」が5割弱

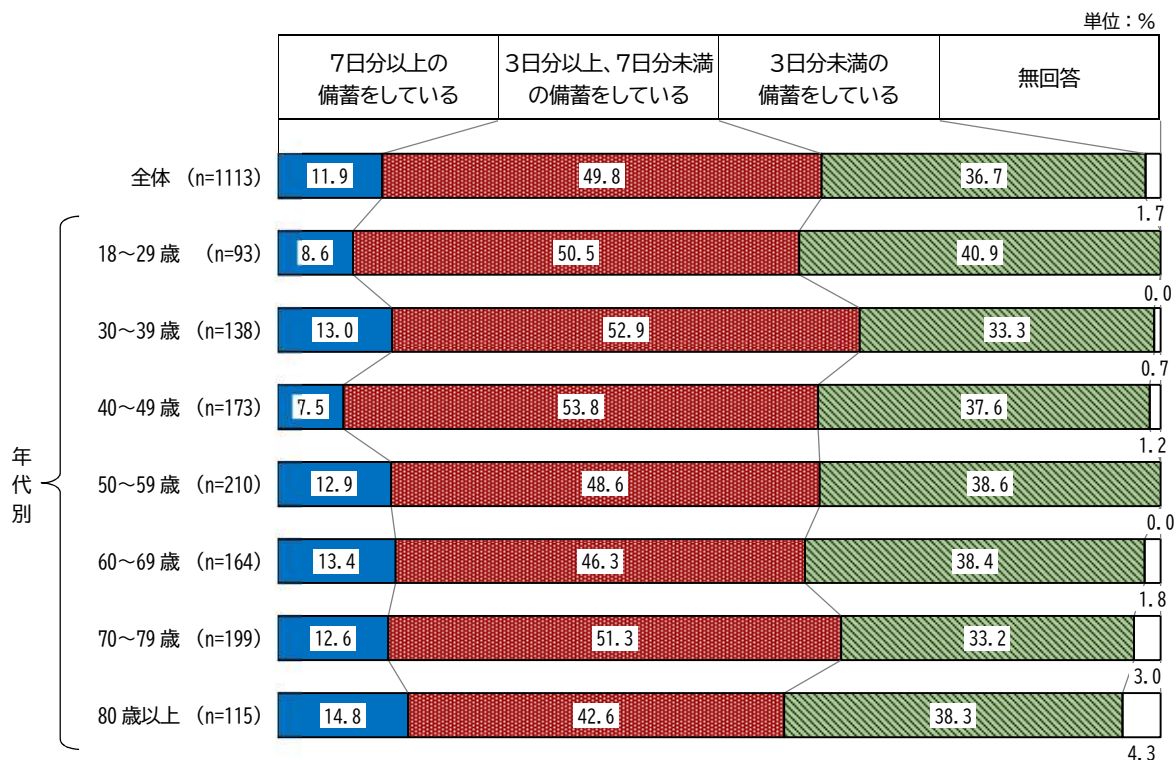
問6-1 (問6で「1」～「3」とお答えの方に伺います)
何日分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)



災害時に備えた備蓄の量について聞いたところ、「3日以上、7日分未満の備蓄をしている」(49.8%)が5割弱で最も高く、次いで「3日分未満の備蓄をしている」(36.7%)が3割半ばを超えている。「7日分以上の備蓄をしている」(11.9%)は1割強となっている。

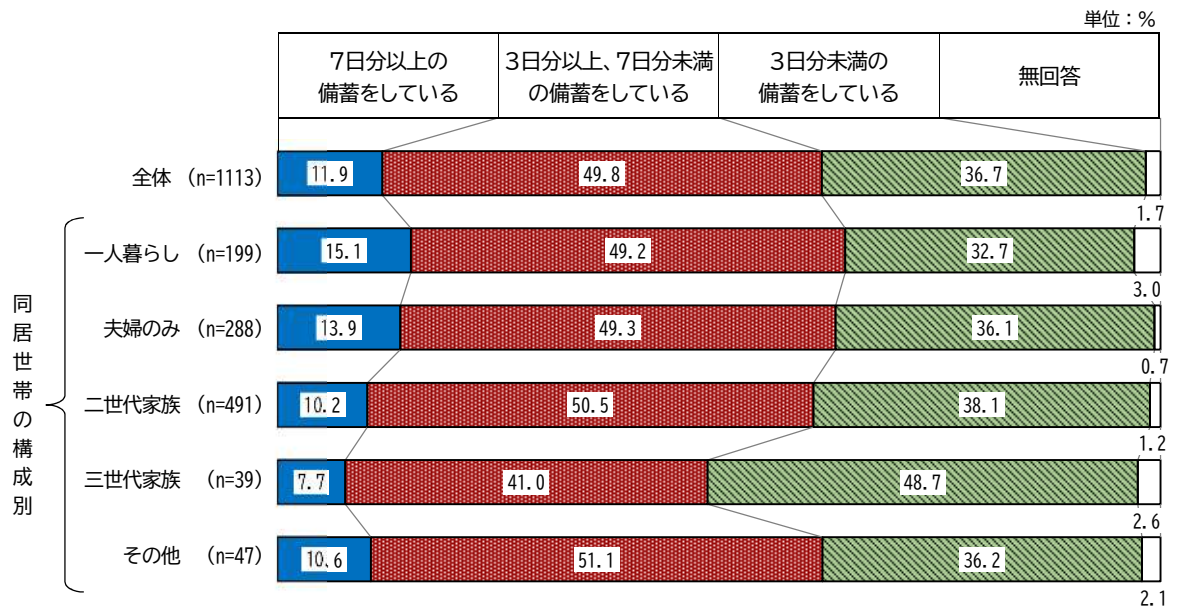
年代別でみると、「7日分以上の備蓄をしている」は80歳以上（14.8%）が1割半ば近くで最も高く、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は40～49歳（53.8%）が5割半ば近くと最も高くなっている。「3日分未満の備蓄をしている」は18～29歳（40.9%）が4割と最も高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 年代別



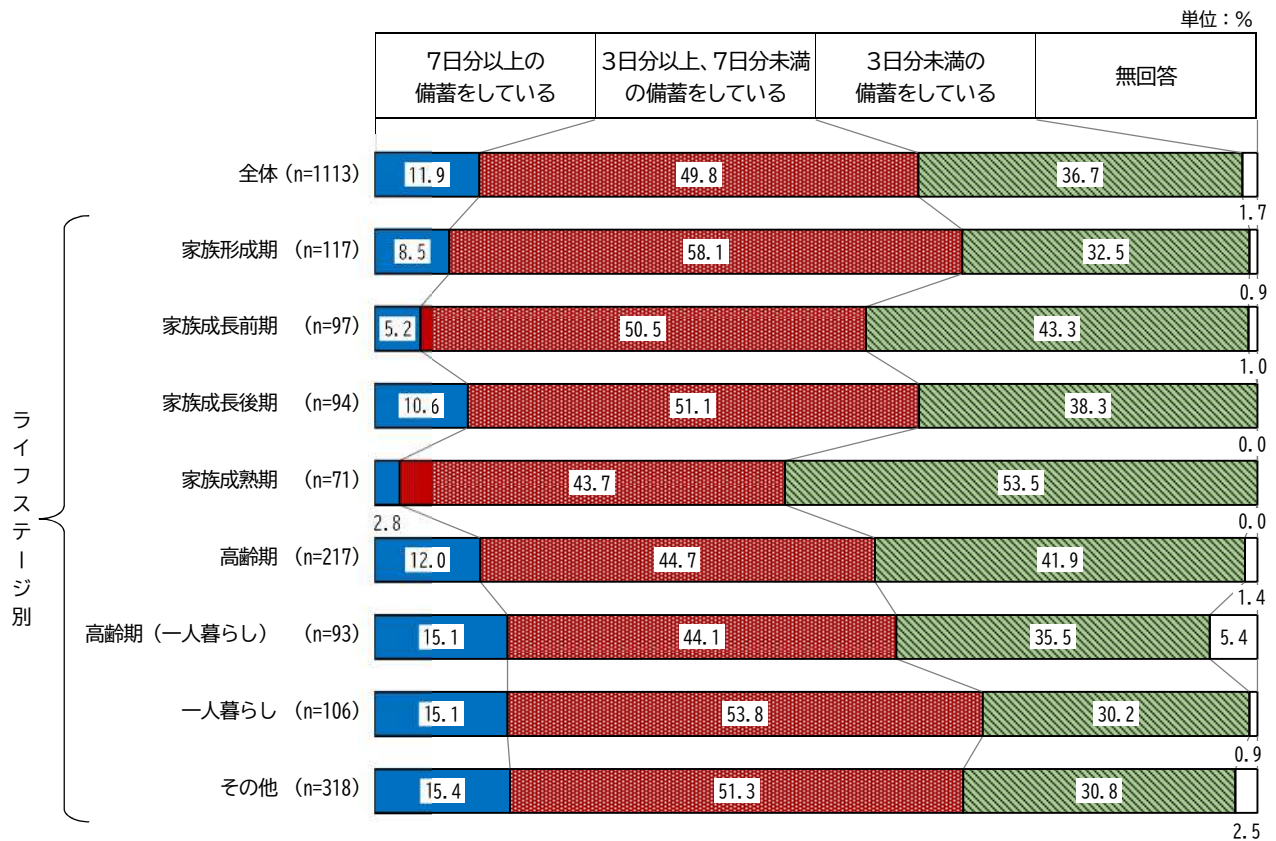
同居世帯の構成別でみると、「7日分以上の備蓄をしている」は一人暮らし（15.1%）が1割半ばと最も高く、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」はその他（51.1%）が5割強、二世世代家族（50.5%）が5割と高くなっている。「3日分未満の備蓄をしている」は三世代家族（48.7%）が5割近くと最も高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、「7日分以上の備蓄をしている」は高齢期（一人暮らし）（15.1%）、一人暮らし（15.1%）、その他（15.4%）が1割半ばと高くなっている。「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は家族形成期（58.1%）が6割近くと最も高く、「3日分未満の備蓄をしている」は家族成熟期（53.5%）が5割半ば近くと最も高くなっている。

災害時に備えた備蓄の量 ライフステージ別

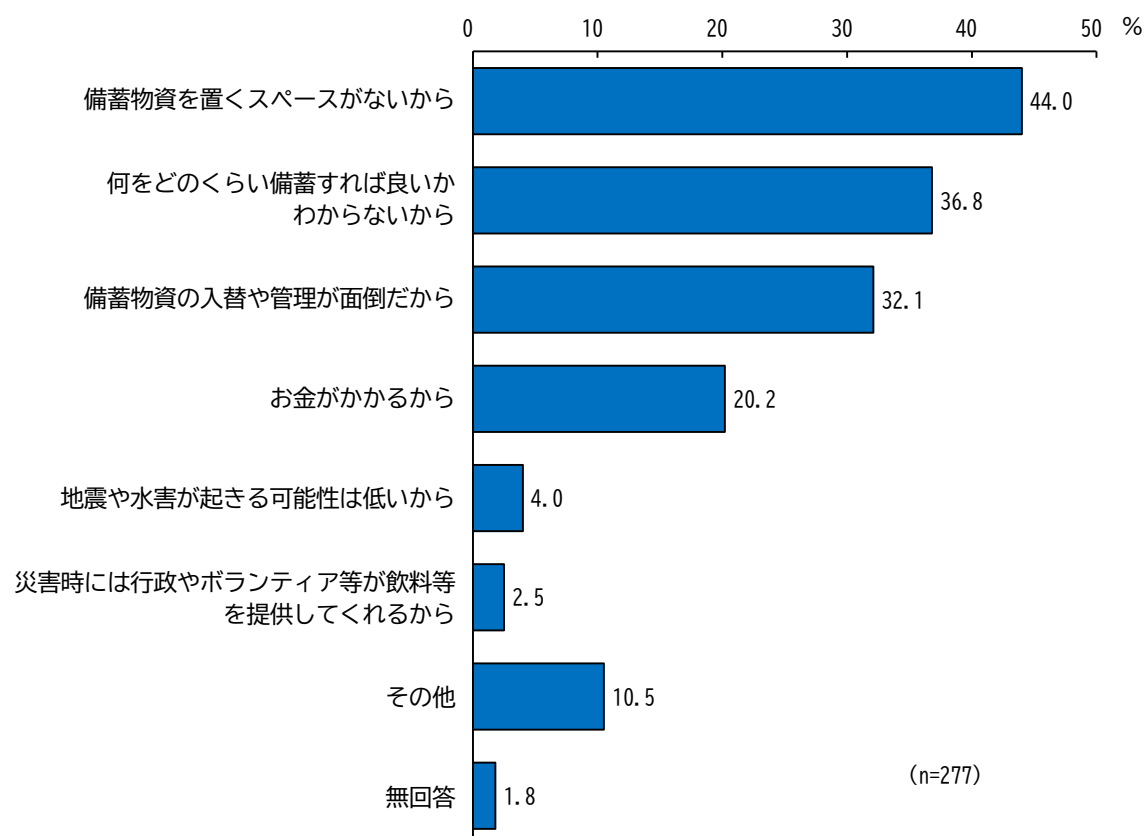


(1-2) 備蓄を行っていない理由

◇「備蓄物資を置くスペースがないから」が4割半ば近く

問6-2 (問6で「4」とお答えの方に伺います)

食料や飲料水の備蓄を行っていない理由について、次の中から当てはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)



備蓄を行っていない理由について聞いたところ、「備蓄物資を置くスペースがないから」(44.0%)が4割半ば近くと最も高く、以下、「何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから」(36.8%)、「備蓄物資の入替や管理が面倒だから」(32.1%)が続いている。

年代別でみると、「備蓄物資を置くスペースがないから」では、30～39歳（58.5%）と40～49歳（50.0%）が5割台と高くなっている。「何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから」は60～69歳（44.7%）が4割半ば近く、「備蓄物資の入替や管理が面倒だから」は30～39歳（41.5%）と40～49歳（47.7%）が4割台と高くなっている。「お金がかかるから」は18～29歳（32.5%）が3割強と最も高くなっている。

備蓄を行っていない理由 年代別

単位：％

		備蓄物資を置くスペースがないから	何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから	備蓄物資の入替や管理が面倒だから	お金がかかるから	地震や水害が起きる可能性は低いから	災害時には行政やボランティア等が飲料等を提供してくれるから	その他	無回答
全体（n=277）		44.0	36.8	32.1	20.2	4.0	2.5	10.5	1.8
年代別	18～29歳（n=40）	45.0	35.0	25.0	32.5	2.5	2.5	12.5	0.0
	30～39歳（n=41）	58.5	29.3	41.5	17.1	2.4	0.0	9.8	0.0
	40～49歳（n=44）	50.0	36.4	47.7	11.4	2.3	2.3	2.3	4.5
	50～59歳（n=44）	47.7	27.3	38.6	22.7	2.3	4.5	11.4	2.3
	60～69歳（n=47）	38.3	44.7	19.1	19.1	6.4	2.1	12.8	0.0
	70～79歳（n=28）	28.6	42.9	28.6	17.9	3.6	3.6	10.7	3.6
	80歳以上（n=23）	26.1	47.8	26.1	13.0	4.3	4.3	17.4	4.3

同居世帯の構成別でみると、「備蓄物資を置くスペースがないから」では、二世世代家族（50.0%）が5割と最も高くなっている。

備蓄を行っていない理由 同居世帯の構成別

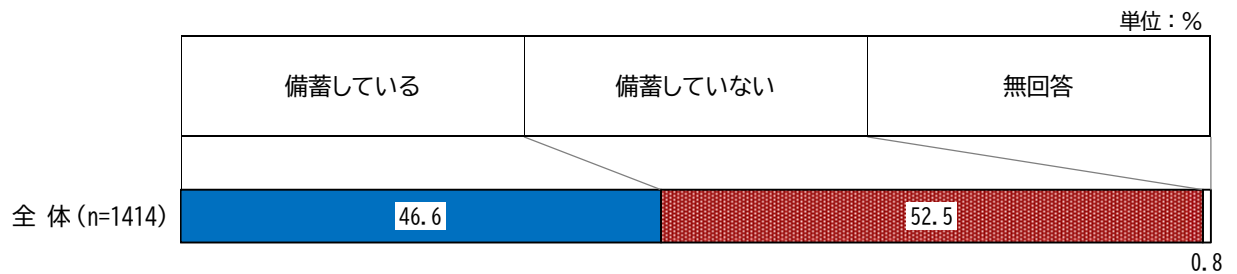
単位：％

		備蓄物資を置くスペースがないから	何をどのくらい備蓄すれば良いかわからないから	備蓄物資の入替や管理が面倒だから	お金がかかるから	地震や水害が起きる可能性は低いから	災害時には行政やボランティア等が飲料等を提供してくれるから	その他	無回答
全体（n=277）		44.0	36.8	32.1	20.2	4.0	2.5	10.5	1.8
同居世帯の構成別	一人暮らし（n=84）	45.2	29.8	35.7	25.0	6.0	3.6	8.3	0.0
	夫婦のみ（n=60）	38.3	36.7	30.0	13.3	5.0	0.0	16.7	3.3
	二世世代家族（n=84）	50.0	38.1	35.7	20.2	1.2	3.6	8.3	2.4
	三世世代家族（n=10）	30.0	50.0	30.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	その他（n=21）	38.1	38.1	23.8	14.3	0.0	0.0	14.3	4.8

(2)災害用トイレの備蓄

◇「備蓄していない」が5割強

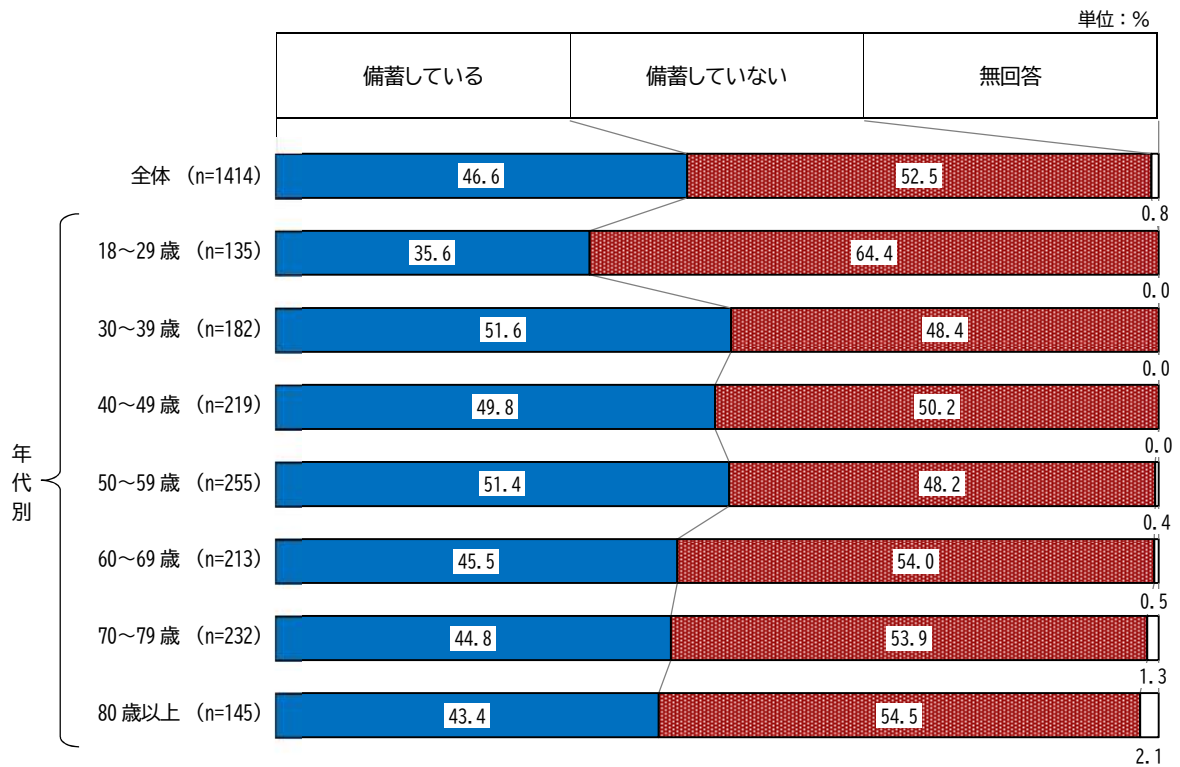
問7 あなたの家庭では、災害用トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ）を備蓄していますか。
（○は1つだけ）



災害用トイレの備蓄について聞いたところ、「備蓄していない」（52.5％）は5割強を占める。一方、「備蓄している」（46.6％）は4割半ばを超えている。

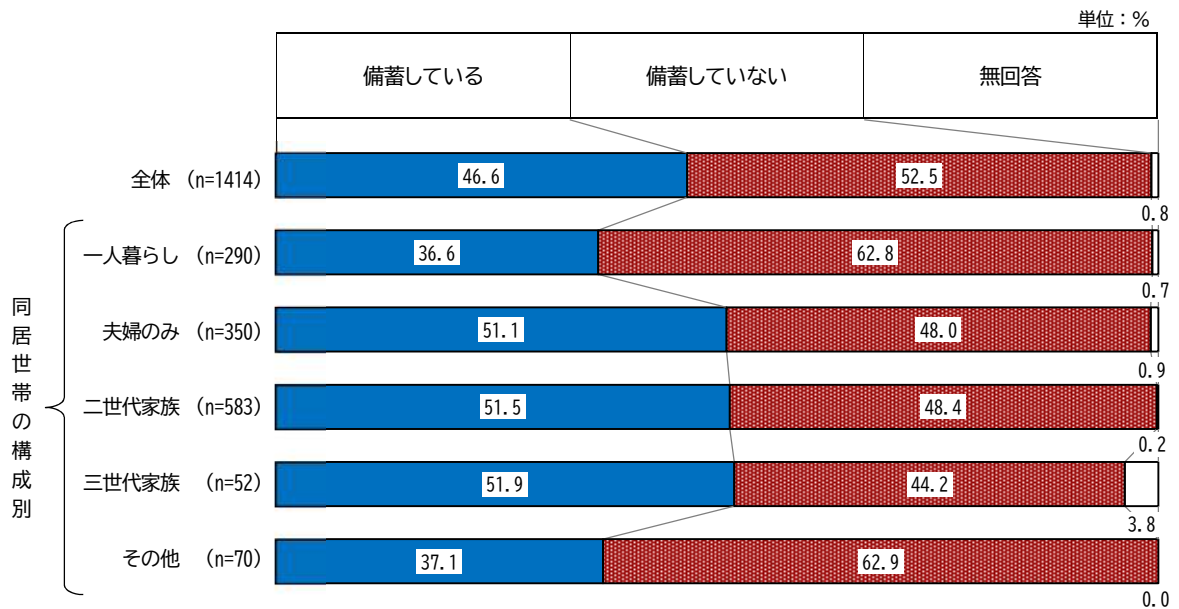
年代別でみると、「備蓄している」は30～39歳（51.6%）と50～59歳（51.4%）が5割強、40～49歳（49.8%）も5割弱と高くなっている。一方、「備蓄していない」は18～29歳（64.4%）が6割半ば近くと最も高くなっている。

災害用トイレの備蓄 年代別



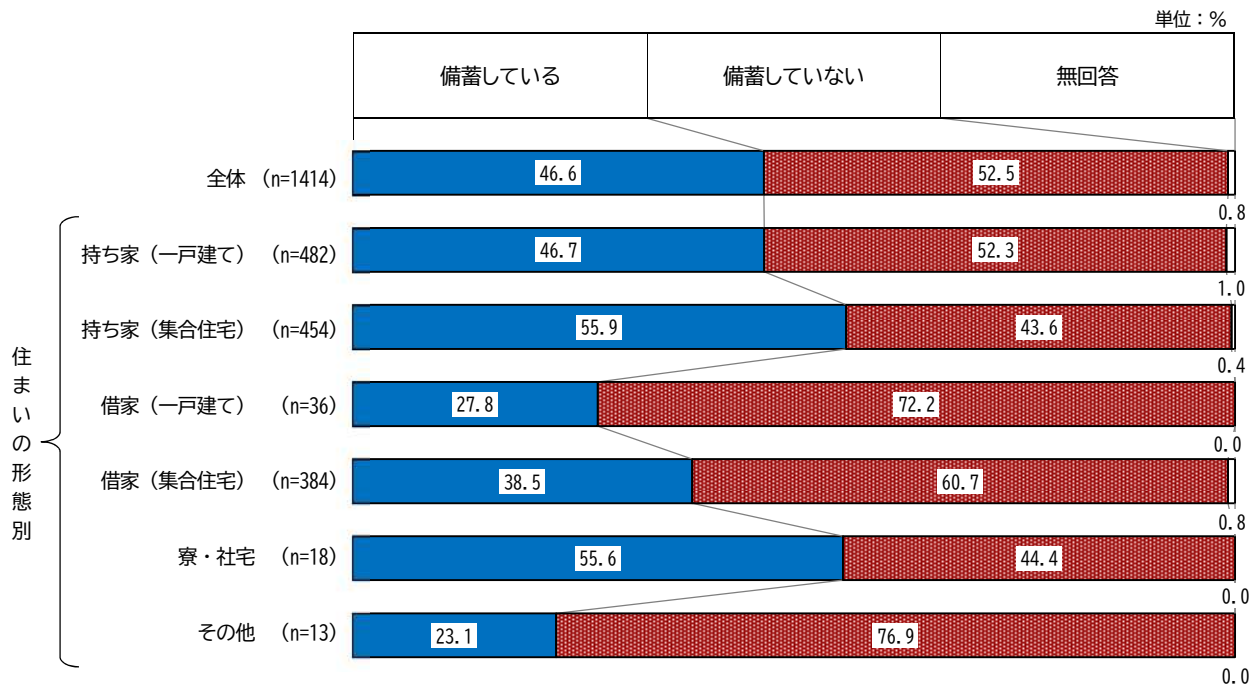
同居世帯の構成別でみると、「備蓄している」は夫婦のみ（51.1%）、二世世代家族（51.5%）、三世世代家族（51.9%）が5割強と高くなっており、一人暮らし（36.6%）とその他（37.1%）は3割半ばを超えるにとどまっている。

災害用トイレの備蓄 同居世帯の構成別



住まいの形態別でみると、「備蓄している」は持ち家（集合住宅）（55.9%）が5割半ば、持ち家（一戸建て）（46.7%）が4割半ばを超えている。一方、借家（一戸建て）（27.8%）と借家（集合住宅）（38.5%）は持ち家に比べ低くなっている。

災害用トイレの備蓄 住まいの形態別

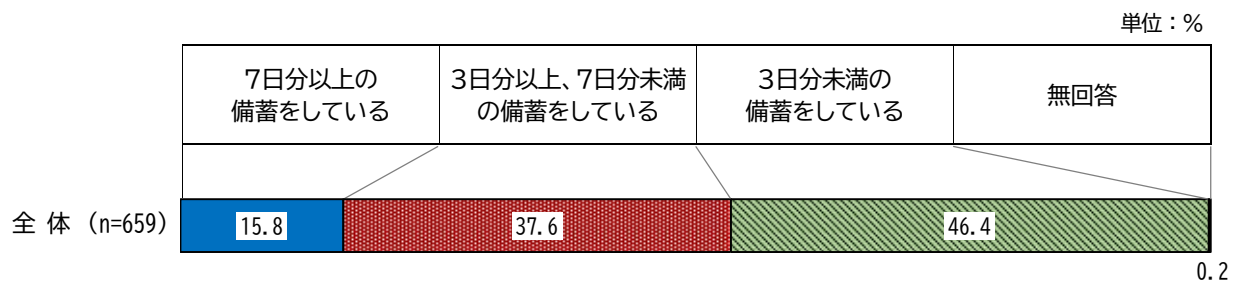


(2-1)災害用トイレの備蓄の量

◇「3日分未満の備蓄をしている」が4割半ばを超える

問7-1 (問7で「1」とお答えの方に伺います)

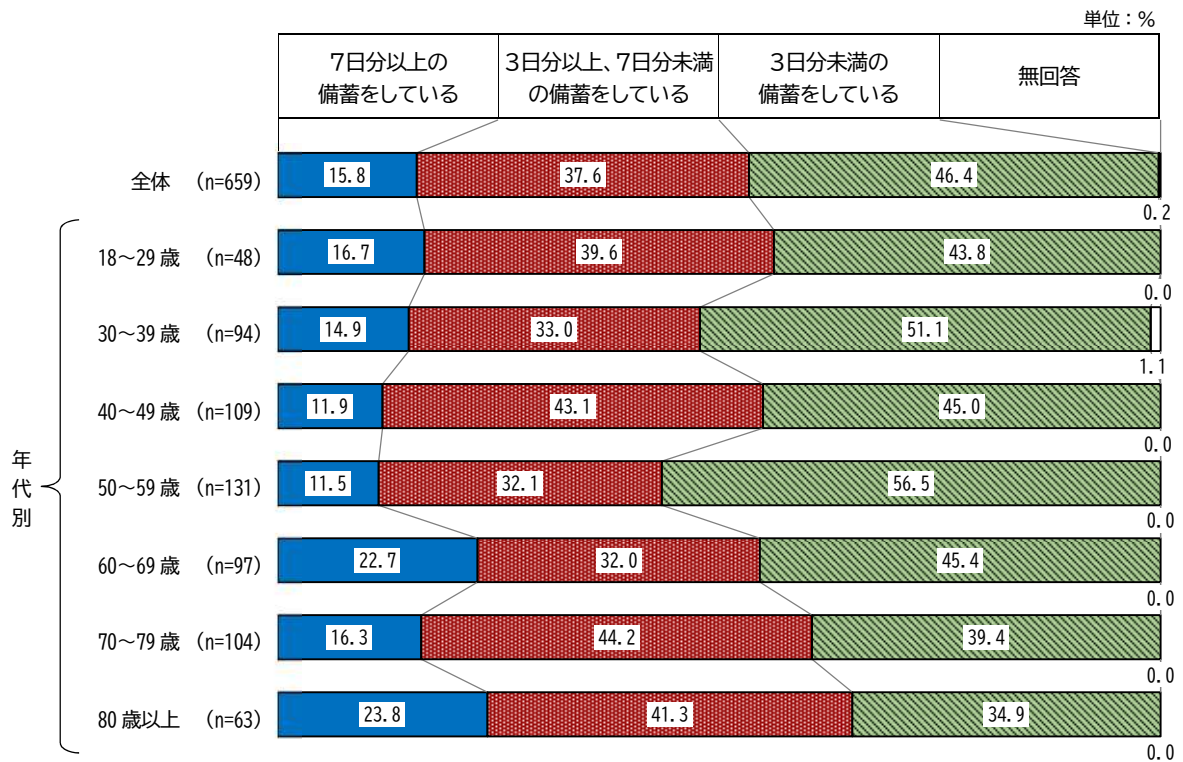
トイレの平均回数は、大人1日5回とされています。何日分の災害用トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ）を備蓄していますか。（○は1つだけ）



災害用トイレの備蓄の量について聞いたところ、「3日分未満の備蓄をしている」（46.4％）が4割半ばを超えて最も高く、次いで「3日以上、7日分未満の備蓄をしている」（37.6％）が3割半ばを超えている。「7日分以上の備蓄をしている」（15.8％）は1割半ばとなっている。

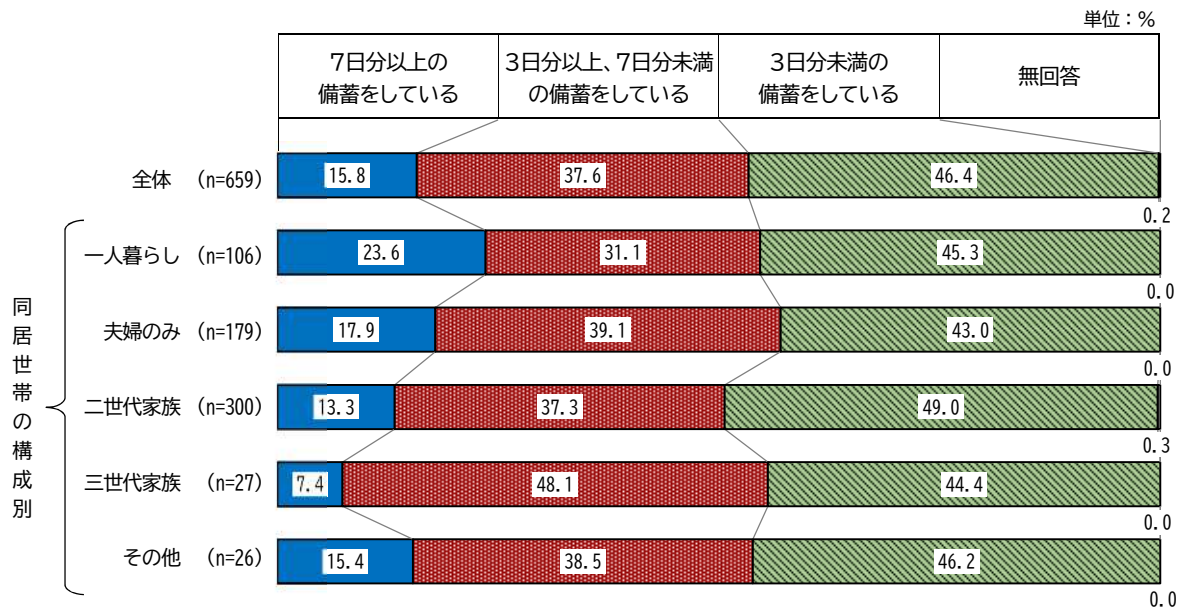
年代別でみると、「7日分以上の備蓄をしている」は80歳以上（23.8%）が2割半ば近くで最も高く、次いで60～69歳（22.7%）が2割強と高くなっている。「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は40～49歳（43.1%）と70～79歳（44.2%）が4割半ば近くと高くなっている。「3日分未満の備蓄をしている」は50～59歳（56.5%）が5割半ばを超えて最も高くなっている。

災害用トイレの備蓄の量 年代別



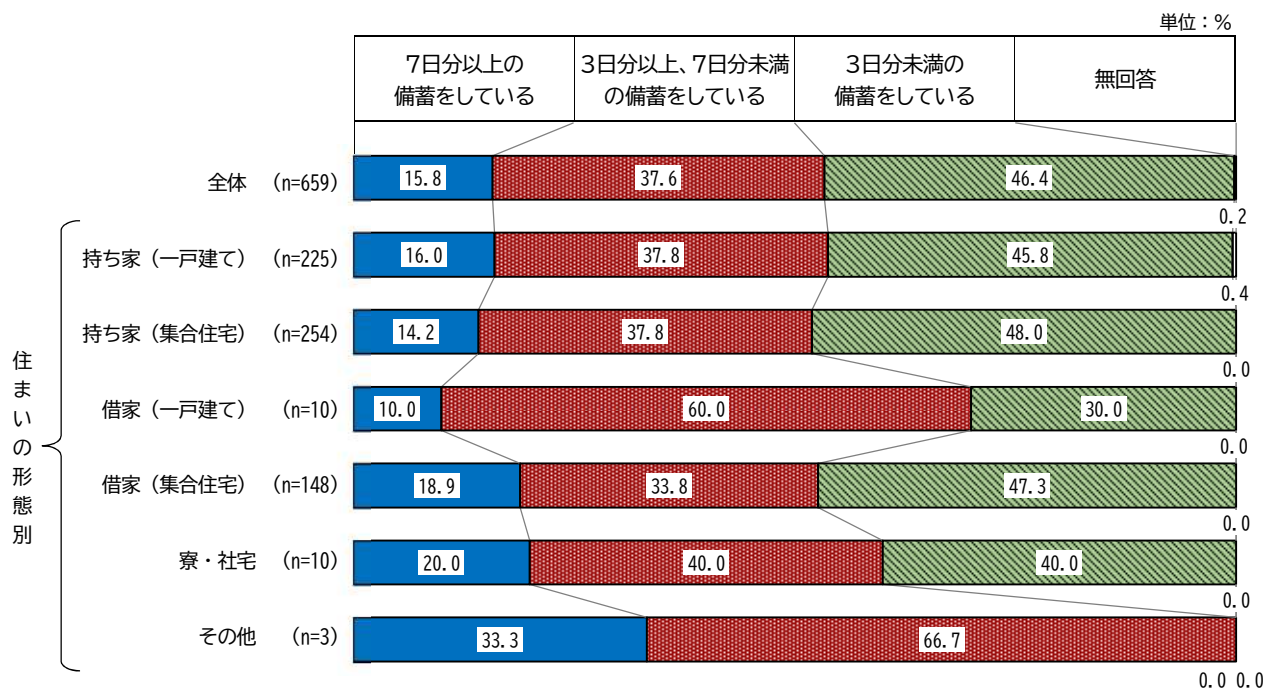
同居世帯の構成別でみると、「7日分以上の備蓄をしている」は一人暮らし（23.6%）が2割半ば近くと最も高く、次いで夫婦のみ（17.9%）が1割半ばを超えて高くなっている。「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は夫婦のみ（39.1%）が4割弱、「3日分未満の備蓄をしている」は二世世代家族（49.0%）が5割弱と高くなっている。

災害用トイレの備蓄の量 同居世帯の構成別



住まいの形態別でみると、「3日分以上、7日分未満の備蓄をしている」は持ち家（一戸建て）（37.8%）と持ち家（集合住宅）（37.8%）が3割半ばを超え、借家（集合住宅）（33.8%）よりやや高くなっている。

災害用トイレの備蓄の量 住まいの形態別

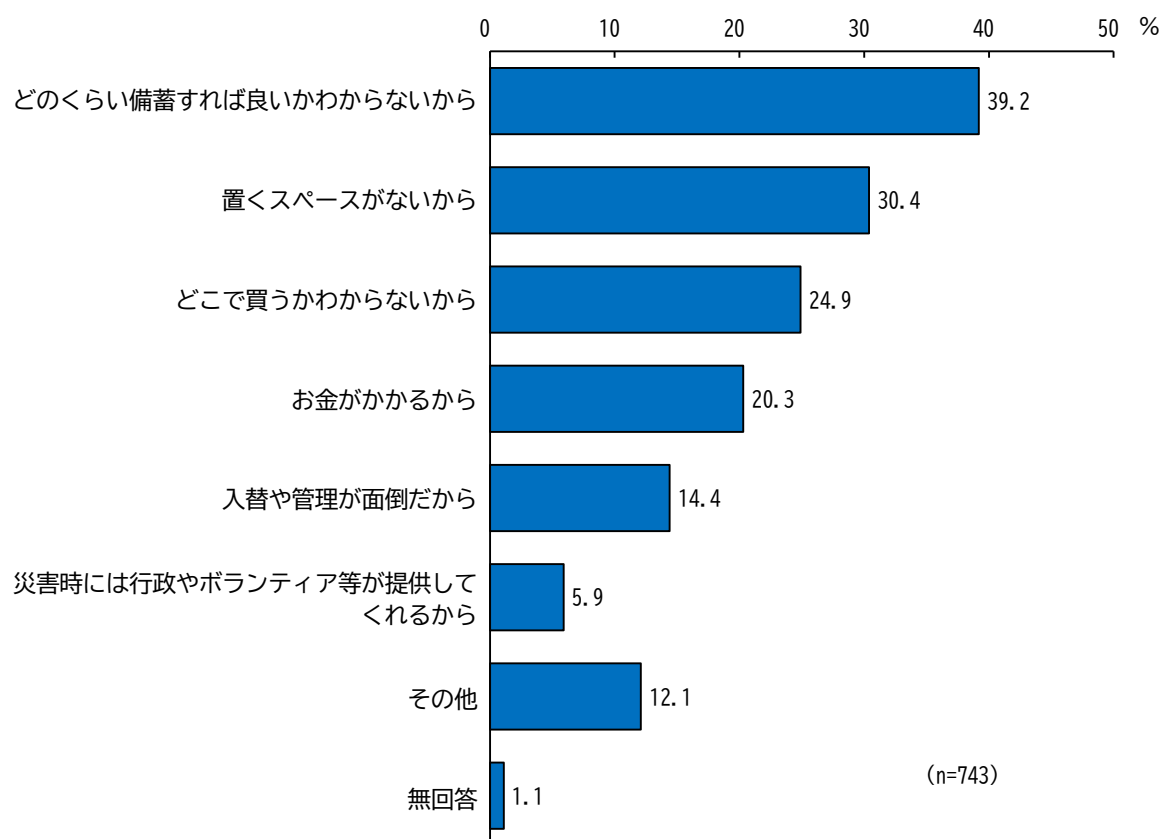


(2-2) 災害用トイレを備蓄していない理由

◇「どのくらい備蓄すれば良いかわからないから」が4割弱

問7-2 (問7で「2」とお答えの方に伺います)

災害用トイレ(携帯トイレ、簡易トイレ)を備蓄していない理由を次の中から選びください。(〇はいくつでも)



災害用トイレを備蓄していない理由について聞いたところ、「どのくらい備蓄すれば良いかわからないから」(39.2%)が4割弱と最も高く、以下、「置くスペースがないから」(30.4%)、「どこで買うかわからないから」(24.9%)が続いている。

年代別でみると、「どのくらい備蓄すれば良いかわからないから」は80歳以上（51.9%）が5割強で最も高くなっている。「置くスペースがないから」は30～39歳（44.3%）が4割半ば近く、「どこで買うかわからないから」は18～29歳（37.9%）が3割半ばを超えて高くなっている。

災害用トイレを備蓄していない理由 年代別

単位：％

	どのくらい 備蓄すれば 良いかわか らないから	置くスパー スがないか ら	どこで買う かわからな いから	お金がかか るから	入替や管理 が面倒だか ら	災害時には 行政やボラ ンティア等 が提供して くれるから	その他	無回答
全体（n=743）	39.2	30.4	24.9	20.3	14.4	5.9	12.1	1.1
年代別								
18～29歳（n=87）	32.2	29.9	37.9	20.7	23.0	1.1	10.3	0.0
30～39歳（n=88）	25.0	44.3	18.2	15.9	21.6	3.4	12.5	0.0
40～49歳（n=110）	43.6	31.8	21.8	25.5	13.6	3.6	10.9	0.9
50～59歳（n=123）	37.4	30.1	26.8	23.6	15.4	3.3	13.8	1.6
60～69歳（n=115）	39.1	26.1	25.2	19.1	13.0	11.3	14.8	0.0
70～79歳（n=125）	44.8	24.8	23.2	17.6	8.0	12.8	12.0	0.0
80歳以上（n=79）	51.9	25.3	22.8	16.5	10.1	3.8	8.9	3.8

同居世帯の構成別でみると、一人暮らしは「置くスペースがないから」（34.6%）、「どこで買うかわからないから」（29.1%）、「お金がかかるから」（26.9%）が他の世帯に比べ高くなっている。

災害用トイレを備蓄していない理由 同居世帯の構成別

単位：％

	どのくらい 備蓄すれば 良いかわか らないから	置くスパー スがないか ら	どこで買う かわからな いから	お金がかか るから	入替や管理 が面倒だか ら	災害時には 行政やボラ ンティア等 が提供して くれるから	その他	無回答
全体（n=743）	39.2	30.4	24.9	20.3	14.4	5.9	12.1	1.1
同居世帯の構成別								
一人暮らし（n=182）	29.1	34.6	29.1	26.9	15.9	8.8	11.0	0.5
夫婦のみ（n=168）	39.3	30.4	19.6	13.7	15.5	7.7	14.3	1.2
二世世代家族（n=282）	42.6	30.1	26.2	20.2	12.8	3.2	12.4	1.1
三世世代家族（n=23）	52.2	8.7	26.1	8.7	26.1	4.3	8.7	0.0
その他（n=44）	45.5	22.7	27.3	22.7	15.9	9.1	11.4	0.0

住まいの形態別でみると、「どのくらい備蓄すれば良いかわからないから」は持ち家（集合住宅）（48.5%）が5割近く、持ち家（一戸建て）（45.2%）が4割半ばとなっている。「置くスペースがないから」は借家（集合住宅）（44.2%）が4割半ば近くと高くなっている。

災害用トイレを備蓄していない理由 住まいの形態別

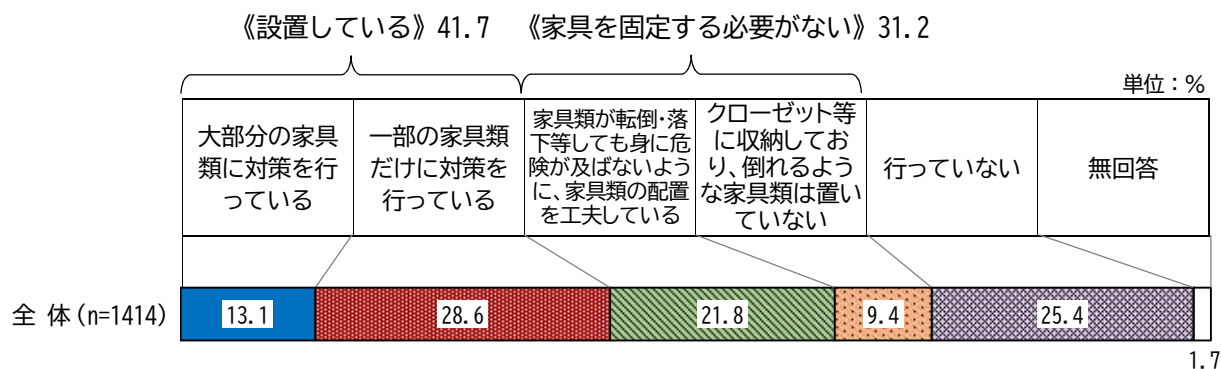
単位：％

		どのくらい 備蓄すれば 良いかわか らないから	置くスパー スがないか ら	どこで買う かわからな いから	お金がかか るから	入替や管理 が面倒だか ら	災害時には 行政やボラ ンティア等 が提供して くれるから	その他	無回答
	全体（n=743）	39.2	30.4	24.9	20.3	14.4	5.9	12.1	1.1
住 ま い の 形 態 別	持ち家（一戸建て）（n=252）	45.2	21.0	23.8	15.9	13.1	5.2	15.1	2.0
	持ち家（集合住宅）（n=198）	48.5	25.8	24.7	14.6	12.6	7.6	13.1	0.0
	借家（一戸建て）（n=26）	34.6	23.1	26.9	26.9	11.5	0.0	7.7	0.0
	借家（集合住宅）（n=233）	28.8	44.2	25.8	29.2	16.7	5.6	9.4	0.4
	寮・社宅（n=8）	25.0	37.5	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5	0.0
	その他（n=10）	30.0	30.0	30.0	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0

(3) 家具の転倒・落下防止

◇《設置している》が4割強、《家具を固定する必要がない》が3割強

問8 あなたの家では、地震に備え、家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置を行っていますか。(○は1つだけ)



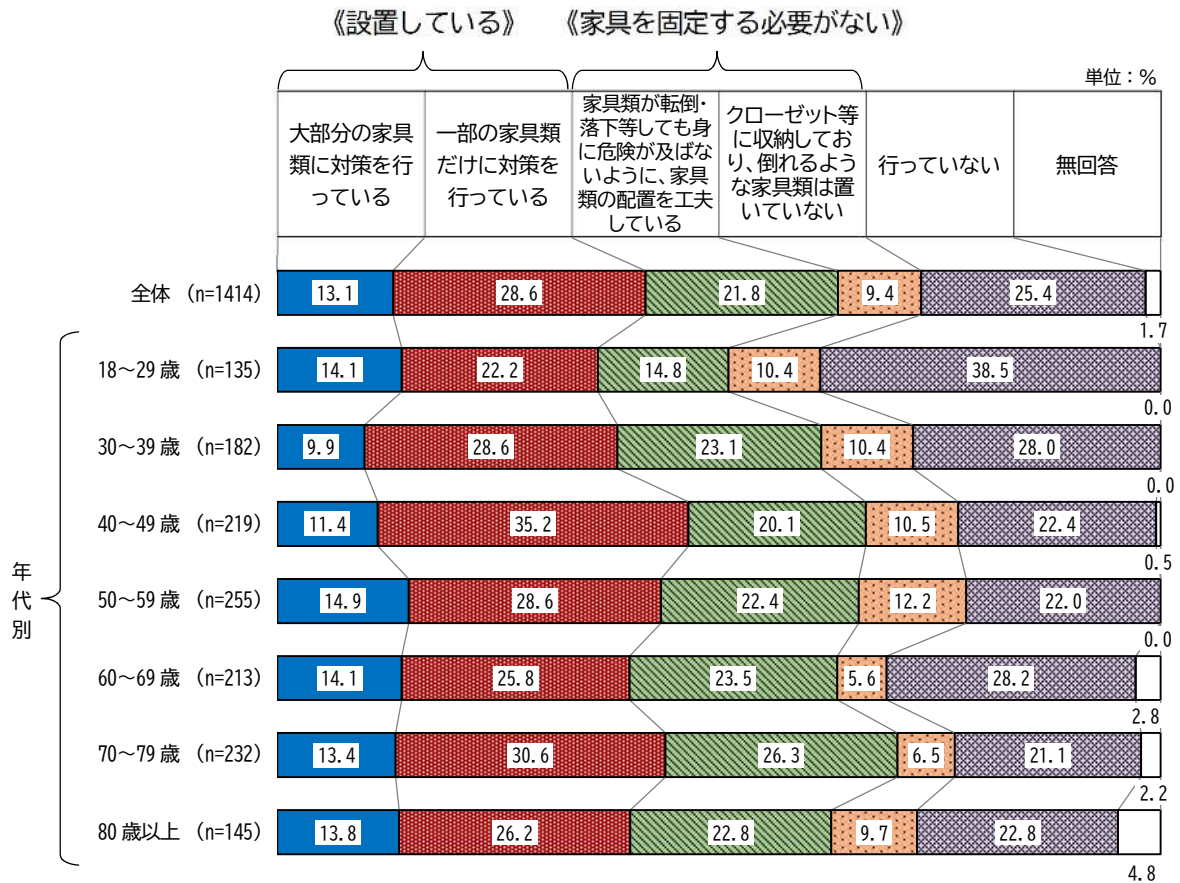
(注) 《設置している》＝「大部分の家具類に対策を行っている」＋「一部の家具類だけに対策を行っている」

《家具を固定する必要がない》＝「家具類が転倒・落下等しても身に危険が及ばないように、家具類の配置を工夫している」＋「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」

家具の転倒・落下防止について聞いたところ、「一部の家具類だけに対策を行っている」(28.6%)が3割近くと最も高く、「大部分の家具類に対策を行っている」(13.1%)を合わせた《設置している》(41.7%)は4割強となっている。「家具類が転倒・落下等しても身に危険が及ばないように、家具類の配置を工夫している」(21.8%)と「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具類は置いていない」(9.4%)を合わせた《家具を固定する必要がない》(31.2%)は3割強となっており、《設置している》を合わせると72.9%となっている。一方、「行っていない」(25.4%)は2割半ばとなっている。

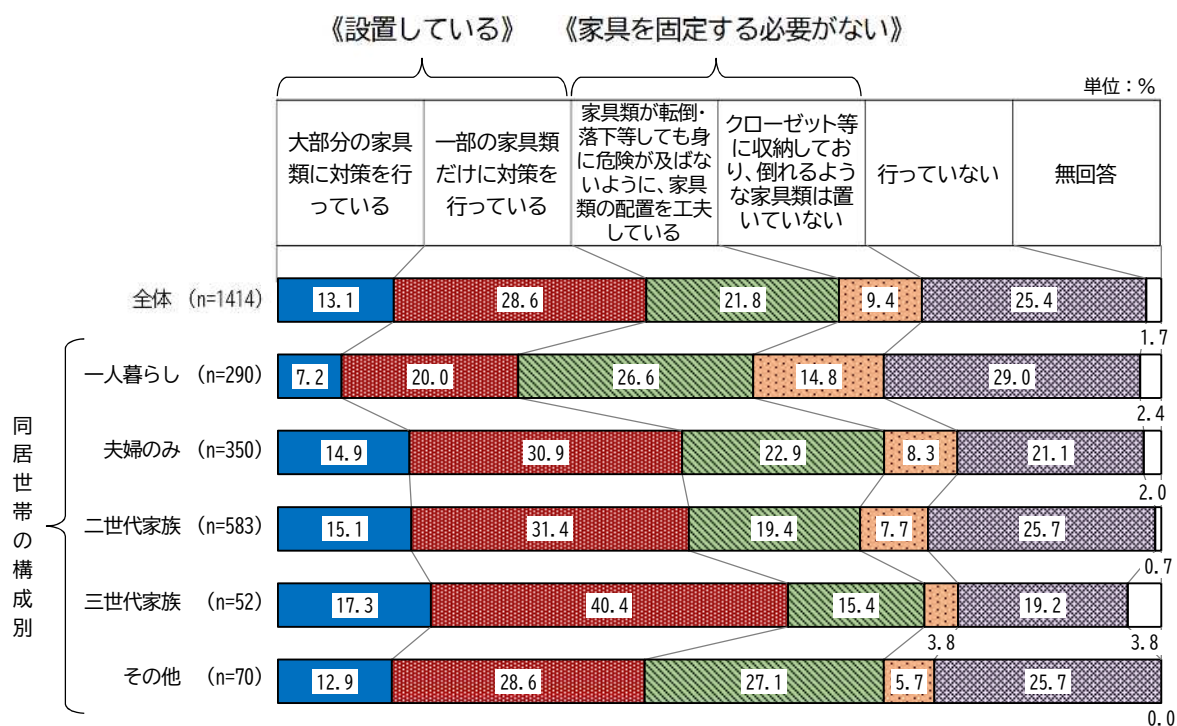
年代別でみると、《設置している》は40～49歳（46.6%）が4割半ばを超えて最も高く、50～59歳（43.5%）と70～79歳（44.0%）も4割半ば近くと高くなっている。「行っていない」は18～29歳（38.5%）が4割近くと最も高くなっている。

家具の転倒・落下防止 年代別



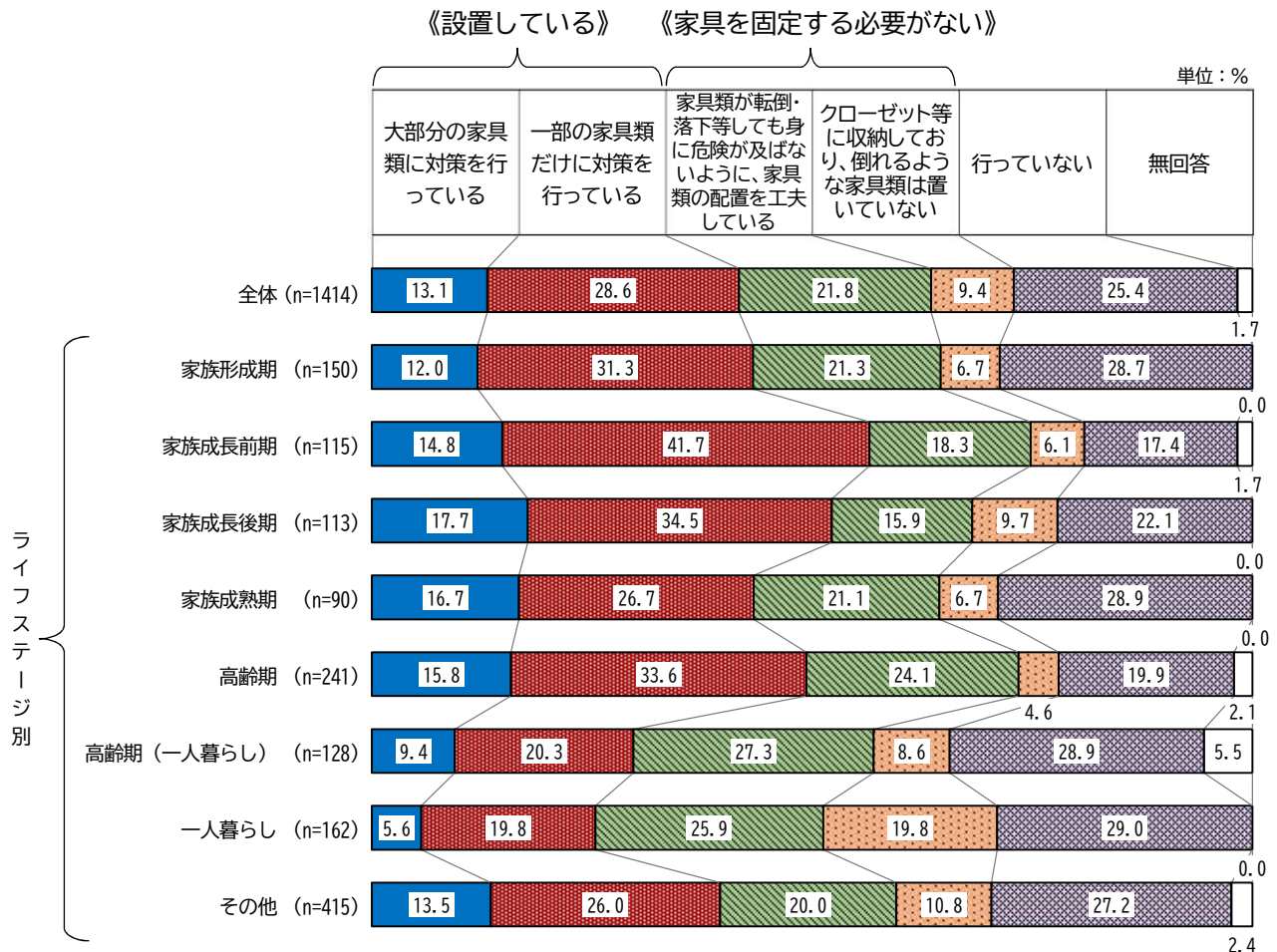
同居世帯の構成別でみると、《設置している》は三世代家族（57.7%）が5割半ばを超えて最も高く、夫婦のみ（45.8%）と二世世代家族（46.5%）も4割台と高くなっている。「行っていない」は一人暮らし（29.0%）が3割弱と高くなっている。

家具の転倒・落下防止 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、《設置している》は家族成長前期（56.5%）が5割半ばを超えて最も高く、次いで家族成長後期（52.2%）が5割強、高齢期（49.4%）が5割弱と高くなっている。「行っていない」は一人暮らし（29.0%）が3割弱、家族形成期（28.7%）、家族成熟期（28.9%）、高齢期（一人暮らし）（28.9%）が3割近くとなっている。

家具の転倒・落下防止 ライフステージ別

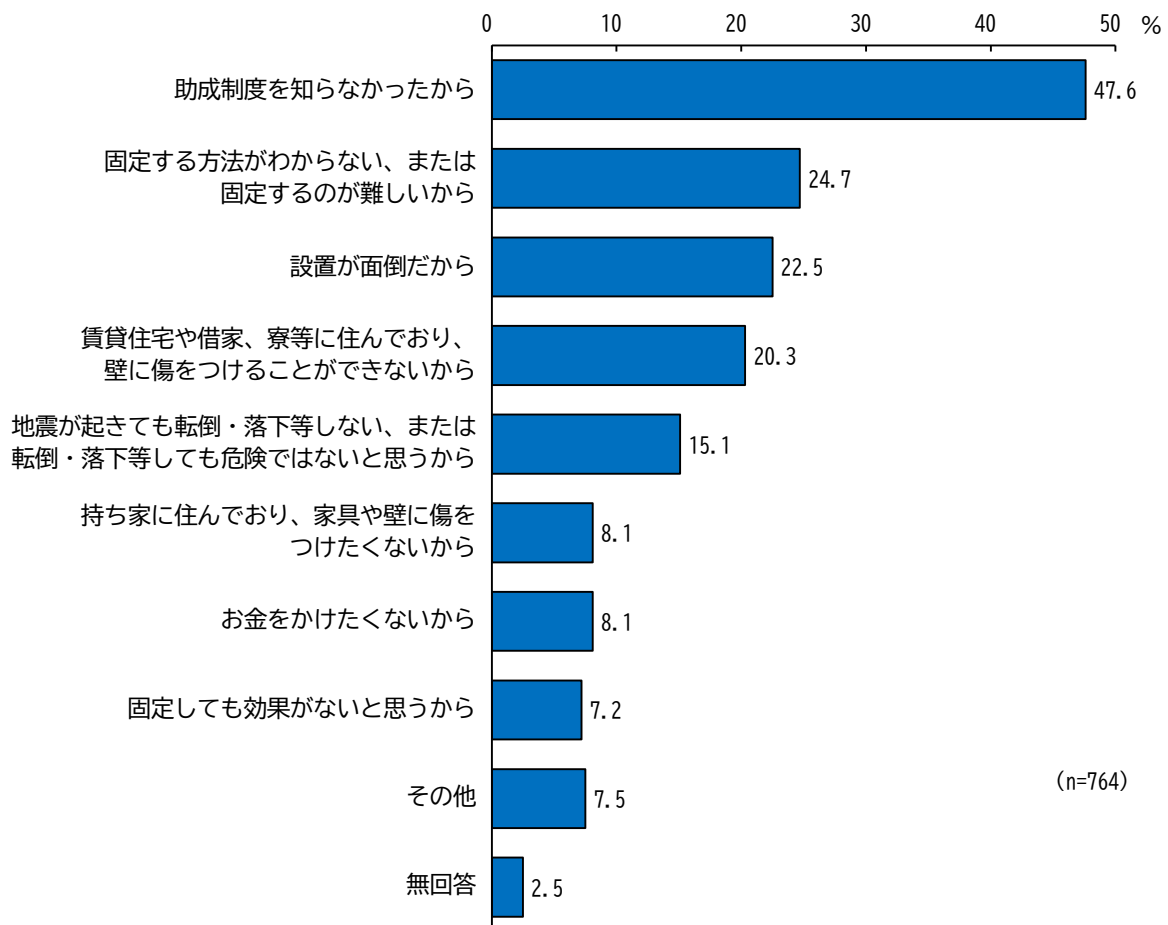


(3-1) 家具の転倒・落下防止器具の未設置理由

◇「助成制度を知らなかったから」が4割半ばを超える

問8-1 (問8で「2」、「5」とお答えの方に伺います)

区で家具類の転倒・落下・移動防止対策器具の設置に5千円～2万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、一部の家具類だけに設置を行っている、または設置を行っていない理由を教えてください。(〇はいくつでも)



家具の転倒・落下防止器具の未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(47.6%)が4割半ばを超えて最も高く、以下、「固定する方法がわからない、または固定するのが難しいから」(24.7%)、「設置が面倒だから」(22.5%)、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」(20.3%)が続いている。

年代別でみると、「助成制度を知らなかったから」は18～49歳が5割台と高くなっている。「固定する方法がわからない、または固定するのが難しいから」は60～69歳（32.2%）が3割強、「設置が面倒だから」は18～29歳（32.9%）が3割強、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」は30～39歳（35.0%）が3割半ばと高くなっている。

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由 年代別

単位：％

		助成制度を知らなかったから	固定する方法がわからない、または固定するのが難しいから	設置が面倒だから	賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから	地震が起きて転倒・落下等しい、または転倒・落下等しいから	持ち家に住んでおり、家具や壁に傷をつけたくないから	お金をかけたくないから	固定しても効果がないと思うから	その他	無回答
	全体 (n=764)	47.6	24.7	22.5	20.3	15.1	8.1	8.1	7.2	7.5	2.5
年代別	18～29歳 (n=82)	58.5	19.5	32.9	29.3	7.3	6.1	12.2	1.2	6.1	1.2
	30～39歳 (n=103)	54.4	24.3	18.4	35.0	16.5	7.8	5.8	3.9	3.9	1.0
	40～49歳 (n=126)	57.9	24.6	20.6	18.3	11.1	15.9	7.9	7.9	5.6	0.0
	50～59歳 (n=129)	48.1	22.5	28.7	14.7	18.6	12.4	13.2	5.4	7.0	0.8
	60～69歳 (n=115)	40.0	32.2	21.7	14.8	13.9	9.6	6.1	12.2	9.6	0.9
	70～79歳 (n=120)	37.5	23.3	14.2	16.7	20.8	1.7	3.3	9.2	11.7	5.8
	80歳以上 (n=71)	38.0	28.2	23.9	14.1	14.1	0.0	5.6	11.3	7.0	9.9

同居世帯の構成別でみると、「助成制度を知らなかったから」は二世世代家族（49.5%）が5割弱、夫婦のみ（48.9%）が5割近くと高くなっている。「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」は一人暮らし（33.1%）が3割半ば近くと高くなっている。

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由 同居世帯の構成別

単位：％

		助成制度を知らなかったから	固定する方法がわからない、または固定するのが難しいから	設置が面倒だから	賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから	地震が起きて転倒・落下等しい、または転倒・落下等しいから	持ち家に住んでおり、家具や壁に傷をつけたくないから	お金をかけたくないから	固定しても効果がないと思うから	その他	無回答
	全体 (n=764)	47.6	24.7	22.5	20.3	15.1	8.1	8.1	7.2	7.5	2.5
同居世帯の構成別	一人暮らし (n=142)	40.8	28.2	23.9	33.1	16.2	10.6	9.9	8.5	6.3	2.1
	夫婦のみ (n=182)	48.9	18.1	23.1	18.7	14.8	8.8	4.4	8.8	8.8	3.3
	二世世代家族 (n=333)	49.5	27.3	21.9	16.2	14.4	7.2	10.2	6.9	7.5	2.1
	三世世代家族 (n=31)	41.9	25.8	9.7	6.5	19.4	12.9	0.0	3.2	9.7	6.5
	その他 (n=38)	60.5	28.9	23.7	21.1	13.2	5.3	2.6	7.9	2.6	0.0

ライフステージ別でみると、「助成制度を知らなかったから」は家族形成期（60.0%）が6割、家族成長前期（58.8%）が6割近くと高くなっている。「設置が面倒だから」は家族成熟期（34.0%）が3割半ば近くと高く、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、壁に傷をつけることができないから」は一人暮らし（39.2%）が4割弱、家族形成期（32.2%）が3割強と高くなっている。

家具の転倒・落下防止器具の未設置理由 ライフステージ別

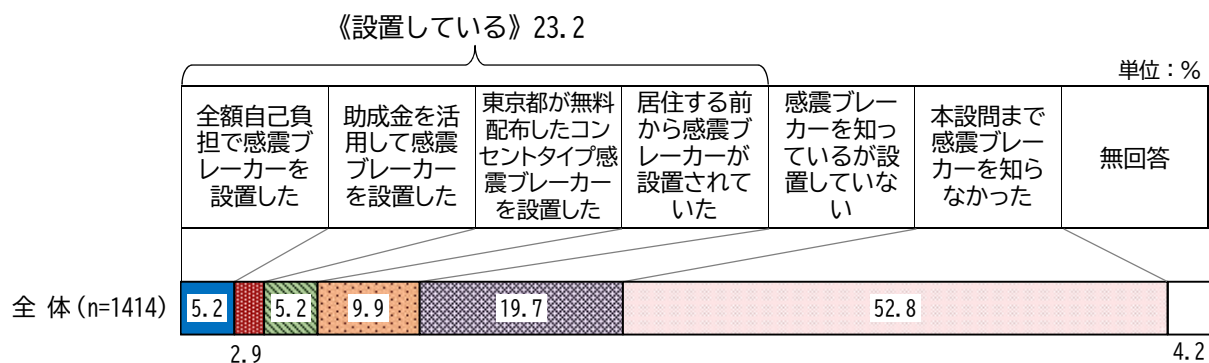
単位：％

		助成制度 を知らな かったか ら	固定する 方法がわ か ら な い、また は固定す るのが難 しいから	設置が面 倒だから	賃貸住宅 や借家、 寮等に住 んで お り、壁に 傷をつけ ることが できない から	地震が起 きても転 倒・落下 等 し な い、また は転倒・ 落下等し ても危険 ではない と思うか ら	持ち家に 住んでお り、家具 や壁に傷 をつけた くないか ら	お金をか けたくな いから	固定して も効果が ないと思 うから	その他	無回答
	全体（n=764）	47.6	24.7	22.5	20.3	15.1	8.1	8.1	7.2	7.5	2.5
ライフ ステー ジ別	家族形成期（n=90）	60.0	20.0	16.7	32.2	12.2	7.8	11.1	4.4	4.4	1.1
	家族成長前期（n=68）	58.8	23.5	17.6	11.8	16.2	10.3	2.9	2.9	4.4	1.5
	家族成長後期（n=64）	53.1	23.4	18.8	14.1	17.2	15.6	10.9	9.4	12.5	1.6
	家族成熟期（n=50）	54.0	28.0	34.0	22.0	24.0	6.0	18.0	8.0	2.0	0.0
	高齢期（n=129）	45.0	27.1	17.8	10.9	16.3	5.4	4.7	9.3	10.1	3.1
	高齢期（一人暮らし）（n=63）	28.6	31.7	22.2	25.4	19.0	1.6	11.1	12.7	6.3	4.8
	一人暮らし（n=79）	50.6	25.3	25.3	39.2	13.9	17.7	8.9	5.1	6.3	0.0
	その他（n=221）	42.1	23.1	26.7	16.7	11.8	5.9	6.3	6.8	8.6	4.1

(4) 感震ブレーカーの設置状況

◇《設置している》は2割半ば近く

問9 地震発生時の通電火災を防ぐために、強い揺れを感知した時に電気を自動的に止める「感震ブレーカー」の設置状況についてお答えください。(○は1つだけ)

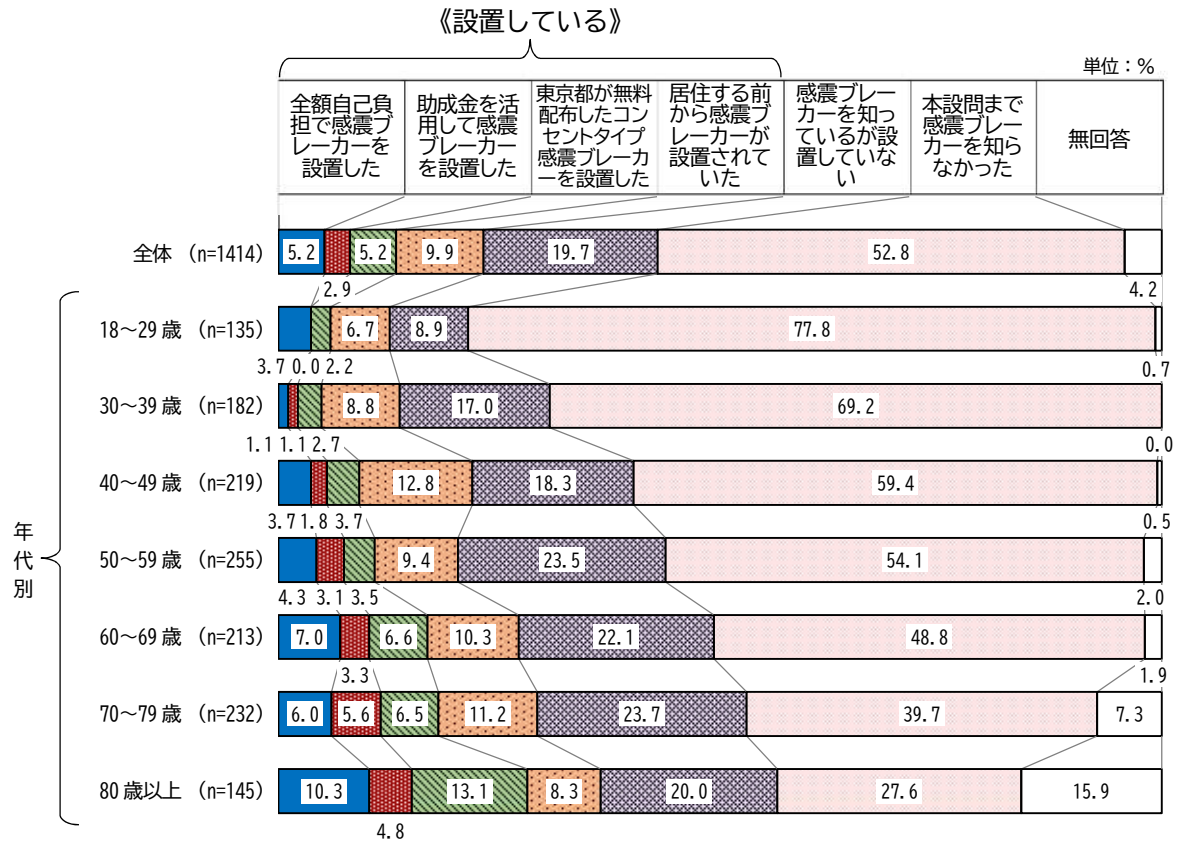


(注) 《設置している》＝「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」＋「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」＋「東京都が無料配布したコンセントタイプ感震ブレーカーを設置した」＋「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」

感震ブレーカーの設置状況について聞いたところ、「全額自己負担で感震ブレーカーを設置した」(5.2%)と「助成金を活用して感震ブレーカーを設置した」(2.9%)と「東京都が無料配布したコンセントタイプ感震ブレーカーを設置した」(5.2%)と「居住する前から感震ブレーカーが設置されていた」(9.9%)を合わせた《設置している》(23.2%)は2割半ば近くとなっている。「感震ブレーカーを知っているが設置していない」(19.7%)は2割弱で、「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」(52.8%)が5割強を占める。

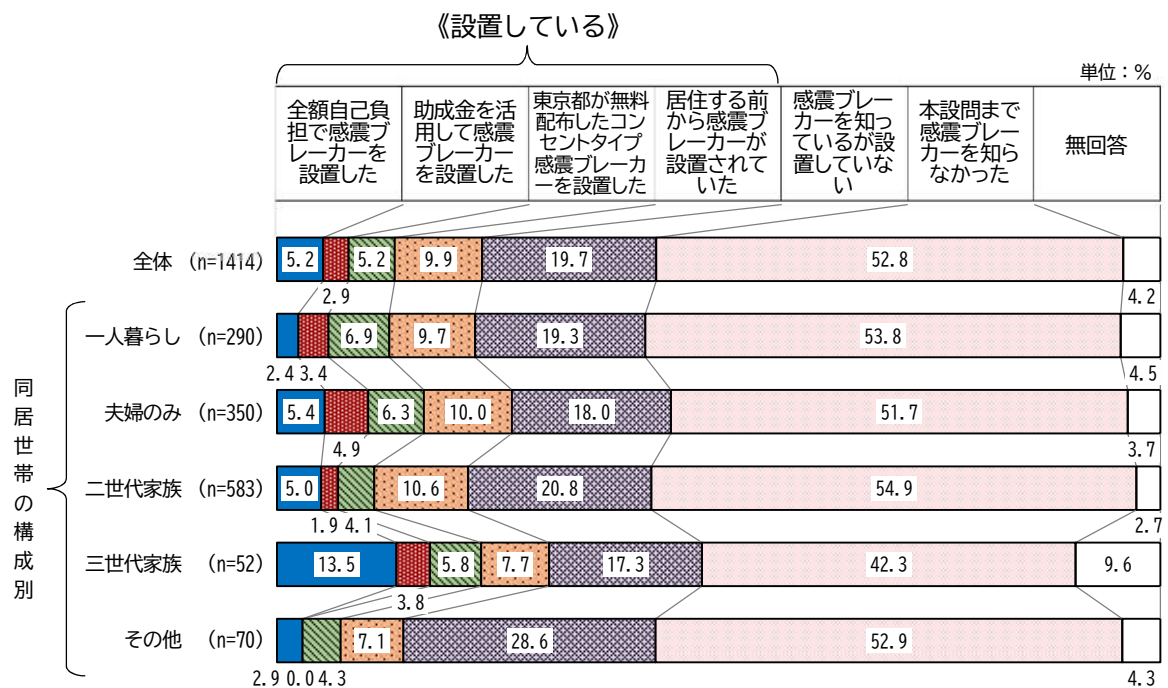
年代別でみると、《設置している》は80歳以上（36.5%）が3割半ばを超えて最も高くなっている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」は年齢層が低くなるほど割合が高くなっており、18～29歳（77.8%）では7割半ばを超えている。

感震ブレーカーの設置状況 年代別



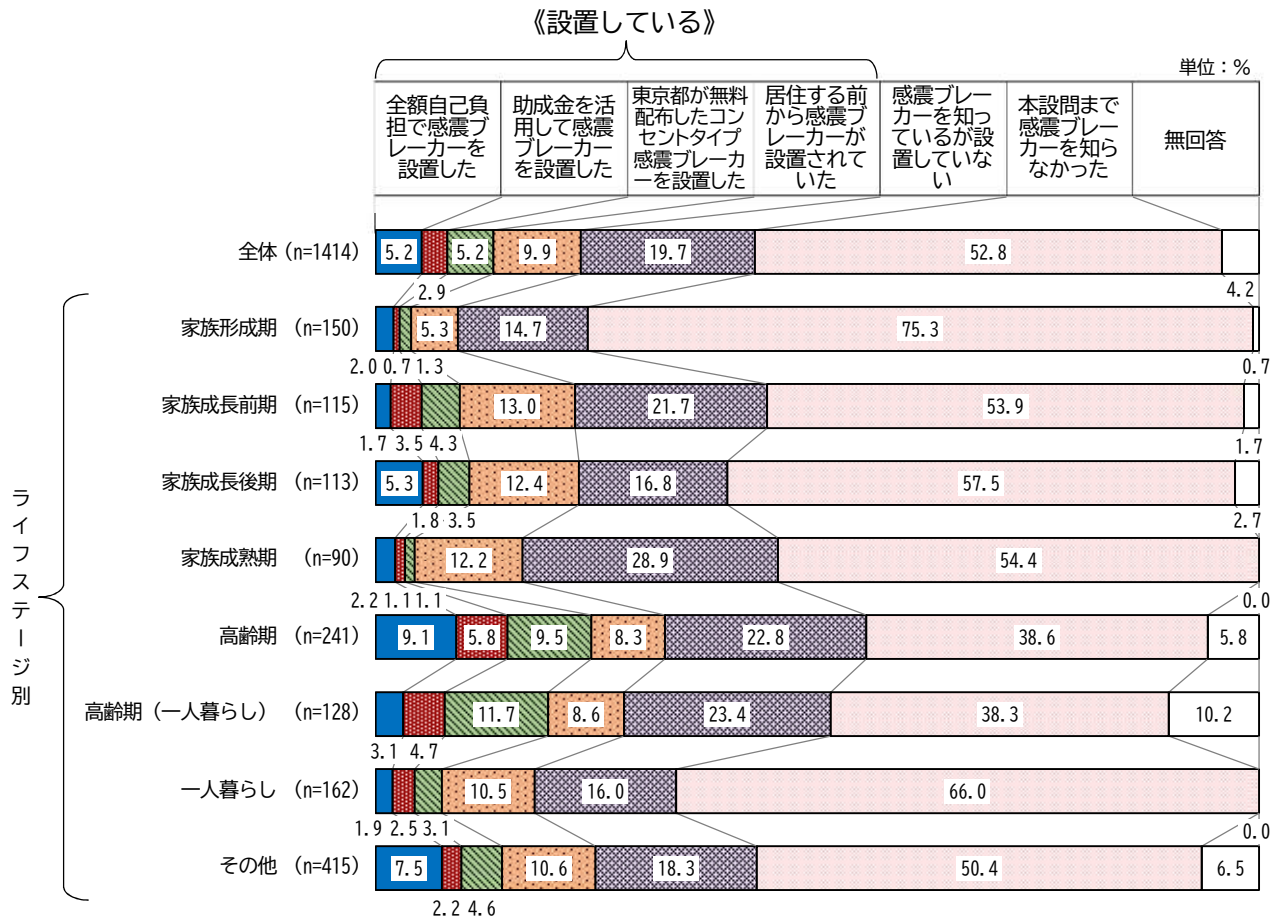
同居世帯の構成別でみると、《設置している》は三世代家族（30.8%）が3割と最も高く、次いで夫婦のみ（26.6%）が2割半ばを超えている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」は三世代家族（42.3%）を除くすべての世帯で5割台となっている。

感震ブレーカーの設置状況 同居世帯の構成別



ライフステージ別でみると、《設置している》は高齢期（32.7%）が3割強と最も高く、次いで高齢期（一人暮らし）（28.1%）が3割近くと高くなっている。「本設問まで感震ブレーカーを知らなかった」では家族形成期（75.3%）が7割半ばと最も高く、次いで一人暮らし（66.0%）が6割半ばを超えている。

感震ブレーカーの設置状況 ライフステージ別

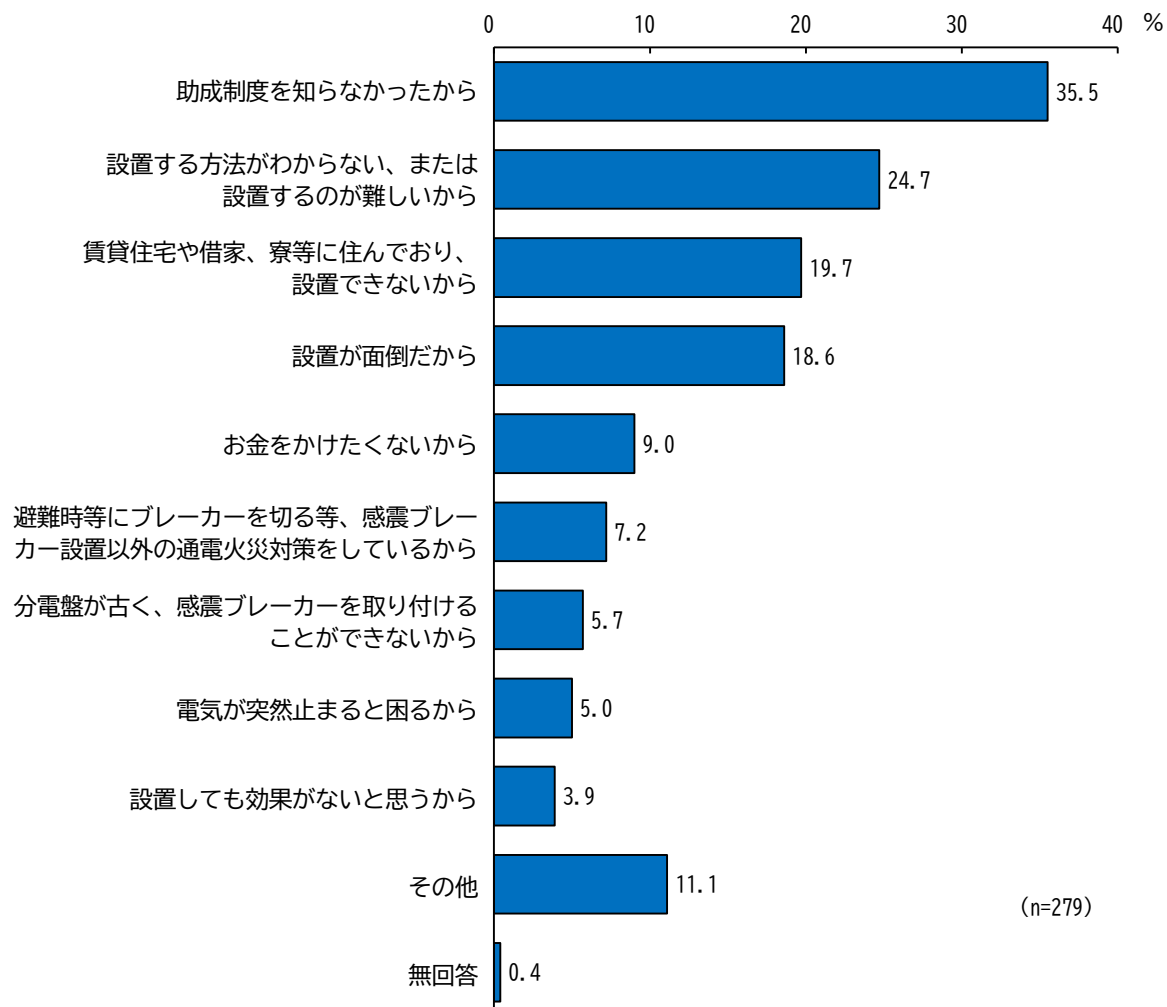


(4-1) 感震ブレーカーの未設置理由

◇「助成制度を知らなかったから」が3割半ば

問9-1 (問9で「5」とお答えの方に伺います)

荒川区では感震ブレーカー等の設置について、5千円～10万円(条件有)の助成金が出る制度がありますが、「感震ブレーカー」を設置していない理由を次の中からお選びください。(〇はいくつでも)



感震ブレーカーの未設置理由について聞いたところ、「助成制度を知らなかったから」(35.5%)が3割半ばと最も高く、以下、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」(24.7%)、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから」(19.7%)、「設置が面倒だから」(18.6%)が続いている。

年代別でみると、「設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから」は60～69歳（36.2%）が3割半ばを超えて最も高く、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから」は30～39歳（48.4%）が5割近くと高くなっている。

感震ブレーカーの未設置理由 年代別

単位：％

		助成制度を 知らなかった から	設置する方 法がわから ない、また は設置する のが難しい から	賃貸住宅や 借家、寮等 に住んでお り、設置で きないから	設置が面倒 だから	お金をかけ たくないか ら	避難時等に ブレーカー を切る等、 感震ブレー カー設置以 外の通電火 災対策をし ているから	分電盤が古 く、感震ブ レーカーを 取り付け ることがで きないから	電気が突然 止まると困 るから	設置しても 効果がない と思うから
全体（n=279）		35.5	24.7	19.7	18.6	9.0	7.2	5.7	5.0	3.9
年代別	18～29歳（n=12）	41.7	8.3	33.3	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3
	30～39歳（n=31）	38.7	16.1	48.4	12.9	3.2	3.2	3.2	3.2	6.5
	40～49歳（n=40）	35.0	10.0	20.0	30.0	10.0	5.0	2.5	2.5	0.0
	50～59歳（n=60）	33.3	30.0	23.3	16.7	16.7	8.3	3.3	10.0	3.3
	60～69歳（n=47）	38.3	36.2	10.6	6.4	4.3	6.4	6.4	4.3	4.3
	70～79歳（n=55）	38.2	25.5	10.9	18.2	5.5	10.9	9.1	7.3	3.6
	80歳以上（n=29）	27.6	31.0	6.9	34.5	13.8	6.9	13.8	0.0	6.9

	その他	無回答
全体（n=279）	11.1	0.4
年代別	18～29歳（n=12）	0.0
	30～39歳（n=31）	0.0
	40～49歳（n=40）	0.0
	50～59歳（n=60）	0.0
	60～69歳（n=47）	0.0
	70～79歳（n=55）	0.0
	80歳以上（n=29）	3.4

同居世帯の構成別でみると、「賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから」は一人暮らし（35.7%）が3割半ばで最も高くなっている。

感震ブレーカーの未設置理由 同居世帯の構成別

単位：％

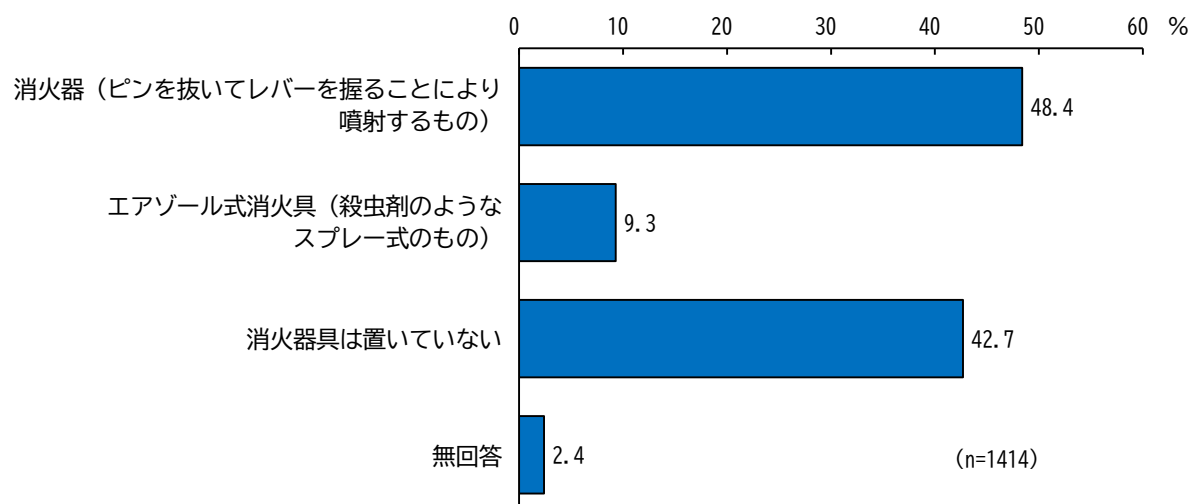
	助成制度を知らなかったから	設置する方法がわからない、または設置するのが難しいから	賃貸住宅や借家、寮等に住んでおり、設置できないから	設置が面倒だから	お金をかけたくないから	避難時等にブレーカーを切る等、感震ブレーカー設置以外の通電火災対策をしているから	分電盤が古く、感震ブレーカーを取り付けることができないから	電気が突然止まると困るから	設置しても効果がないと思うから
全体（n=279）	35.5	24.7	19.7	18.6	9.0	7.2	5.7	5.0	3.9
同居世帯の構成別									
一人暮らし（n=56）	28.6	26.8	35.7	14.3	10.7	5.4	7.1	5.4	5.4
夫婦のみ（n=63）	41.3	25.4	9.5	23.8	3.2	7.9	3.2	6.3	4.8
二世世代家族（n=121）	34.7	23.1	19.0	16.5	11.6	6.6	5.0	5.0	2.5
三世世代家族（n=9）	44.4	33.3	0.0	11.1	11.1	22.2	22.2	0.0	0.0
その他（n=20）	40.0	25.0	15.0	30.0	5.0	5.0	5.0	5.0	10.0

	その他	無回答
全体（n=279）	11.1	0.4
同居世帯の構成別		
一人暮らし（n=56）	12.5	0.0
夫婦のみ（n=63）	11.1	0.0
二世世代家族（n=121）	10.7	0.0
三世世代家族（n=9）	0.0	11.1
その他（n=20）	10.0	0.0

(5) 消火器具の保有状況

◇「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」が5割近く

問 10 ご自宅にある消火器具を全て選択してください。（「1」、「2」は、○はいくつでも）



消火器具の保有状況について聞いたところ、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」（48.4%）が5割近くと最も高く、「エアゾール式消火具（殺虫剤のようなスプレー式のもの）」（9.3%）は1割弱となっている。一方、「消火器具は置いていない」（42.7%）は4割強となっている。

年代別でみると、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」は、60～69 歳（52.1%）と 70～79 歳（51.7%）が5割強、他の年代も4割台となっている。一方、「消火器具は置いていない」は18～29 歳（51.1%）が5割強、30～39 歳（48.9%）が5割近く、40～49 歳（47.0%）が4割半ばを超えて高くなっている。

消火器具の保有状況 年代別

単位：％

		消火器(ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの)	エアゾール式消火具(殺虫剤のようなスプレー式のもの)	消火器具は置いていない	無回答
	全体 (n=1414)	48.4	9.3	42.7	2.4
年代別	18～29歳 (n=135)	43.0	3.7	51.1	2.2
	30～39歳 (n=182)	46.2	4.9	48.9	0.0
	40～49歳 (n=219)	46.6	8.2	47.0	1.4
	50～59歳 (n=255)	49.8	10.2	41.6	1.6
	60～69歳 (n=213)	52.1	12.2	39.0	0.5
	70～79歳 (n=232)	51.7	13.4	37.1	4.3
	80歳以上 (n=145)	48.3	9.0	38.6	6.2

同居世帯の構成別でみると、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」は夫婦のみ（51.7%）と二世世代家族（50.1%）が5割台と高くなっている。「消火器具は置いていない」は、一人暮らし（45.9%）が4割半ばと高くなっている。

消火器具の保有状況 同居世帯の構成別

単位：％

		消火器(ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの)	エアゾール式消火具(殺虫剤のようなスプレー式のもの)	消火器具は置いていない	無回答
	全体 (n=1414)	48.4	9.3	42.7	2.4
同居世帯の構成別	一人暮らし (n=290)	43.8	9.3	45.9	3.1
	夫婦のみ (n=350)	51.7	9.7	41.7	1.4
	二世世代家族 (n=583)	50.1	9.8	41.2	1.9
	三世世代家族 (n=52)	44.2	9.6	40.4	5.8
	その他 (n=70)	42.9	5.7	50.0	2.9

ライフステージ別でみると、「消火器（ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの）」は家族成長前期（54.8%）、家族成長後期（54.9%）、高齢期（53.9%）が5割半ば近くと高くなっている。「消火器具は置いていない」は家族形成期（49.3%）が5割弱、家族成熟期（46.7%）と一人暮らし（47.5%）が4割半ばを超えて高くなっている。

消火器具の保有状況 ライフステージ別

単位：%

		消火器(ピンを抜いてレバーを握ることにより噴射するもの)	エアゾール式消火具(殺虫剤のようなスプレー式のもの)	消火器具は置いていない	無回答
全体 (n=1414)		48.4	9.3	42.7	2.4
ライフステージ別	家族形成期 (n=150)	44.7	6.7	49.3	0.0
	家族成長前期 (n=115)	54.8	8.7	39.1	0.0
	家族成長後期 (n=113)	54.9	12.4	35.4	1.8
	家族成熟期 (n=90)	47.8	7.8	46.7	1.1
	高齢期 (n=241)	53.9	12.9	35.7	2.9
	高齢期(一人暮らし) (n=128)	42.2	11.7	43.8	5.5
	一人暮らし (n=162)	45.1	7.4	47.5	1.2
	その他 (n=415)	46.5	8.0	44.3	3.6